

温泉と共に生きる石和温泉
石和温泉観光協会では、昭和36年
1月に石和温泉が湧出したことと、
1(い)3(さ)0(わ)にちなみ、
1月30日を「いさわ温泉の日」と
決めました。

源泉回帰。

昭和36年1月、

石和のとあるブドウ畑で

突然、高温のお湯が湧き出しました。

大人も子供も押し寄せて、

みんなで入った青空温泉。

それが石和温泉のはじまりでした。

温泉に入ることが純粹に嬉しかった。

温泉はいいものだと思直に喜んだ。

すべてがセピア色に褪せてゆく中で、

あの幸せに満ちた青空の記憶は

今なお輝き続けています。

石和温泉は、今年で50周年。

もう一度あの感動の源泉みなもとに帰り、

温泉の素晴らしさを伝えてゆきます。



1月30日は、「いさわ温泉の日」

1

平成23年

高温温泉湧出50周年記念イベント開催

30

日

《石和温泉郷スタンプラリー》

旅館・ホテルや足湯ひろばなど、指定された施設を3カ所巡ってスタンプを集めると、素敵な賞品が当たる抽選会に参加できます。スタンプラリーの台紙は各ポイントで配布します。

《山梨グルメ&舞踊ステージ》

会場では話題の鳥もつや甲州ワインビーフなどのご当地グルメ・笛吹のワインや地酒・スイーツ・特産のいちご等、たくさんの屋台が出店します。また、芸者さんらによる舞踊や太鼓の披露もあります。

11:00~16:00

会場：いさわ温泉観光の駅（石和源泉足湯ひろば）

恩賜林御下賜100周年

1月30日は、「いさわ温泉の日」

キーワードは

い さ わ
1 3 0

石和温泉の歴史

History of Isawa Onsen



幸せに満ちた青空の記憶

明治時代から、石和町の北に位置する大蔵経寺山のふもとに温泉が湧いていました。昭和31年、小松遊覧農場に温泉が湧き、ローマ風呂としてお目見えしたことが、石和温泉開発のきっかけになりました。

昭和36年1月24日、八田地内で山梨交通の保養所で井戸を掘っていたところ、摂氏60度もある温泉が噴き出し、毎分1200リットルもの湯が葡萄畑のあいだを流れる小川に溢れ出ました。青空温泉の出現となったわけです。大人も子どももそして男も女も押し寄せて海水浴場さながらの賑わいで、周辺にはおでんなどの屋台が出る騒ぎだったそうです。

当時高校の教師をしていたKさんは、教え子たちと卒業の思い出にと青空温泉に入ったことを、また子どもだったIさんは日ごろ仕事に追われて忙しかった父親と一緒に、お弁当を持って通った青空温泉でのひとときが嬉しかったこと、父と子の触れ合いがなによりも尊いものであったかを、大切な思い出として『石和温泉郷誕生40周年記念誌』に寄せています。

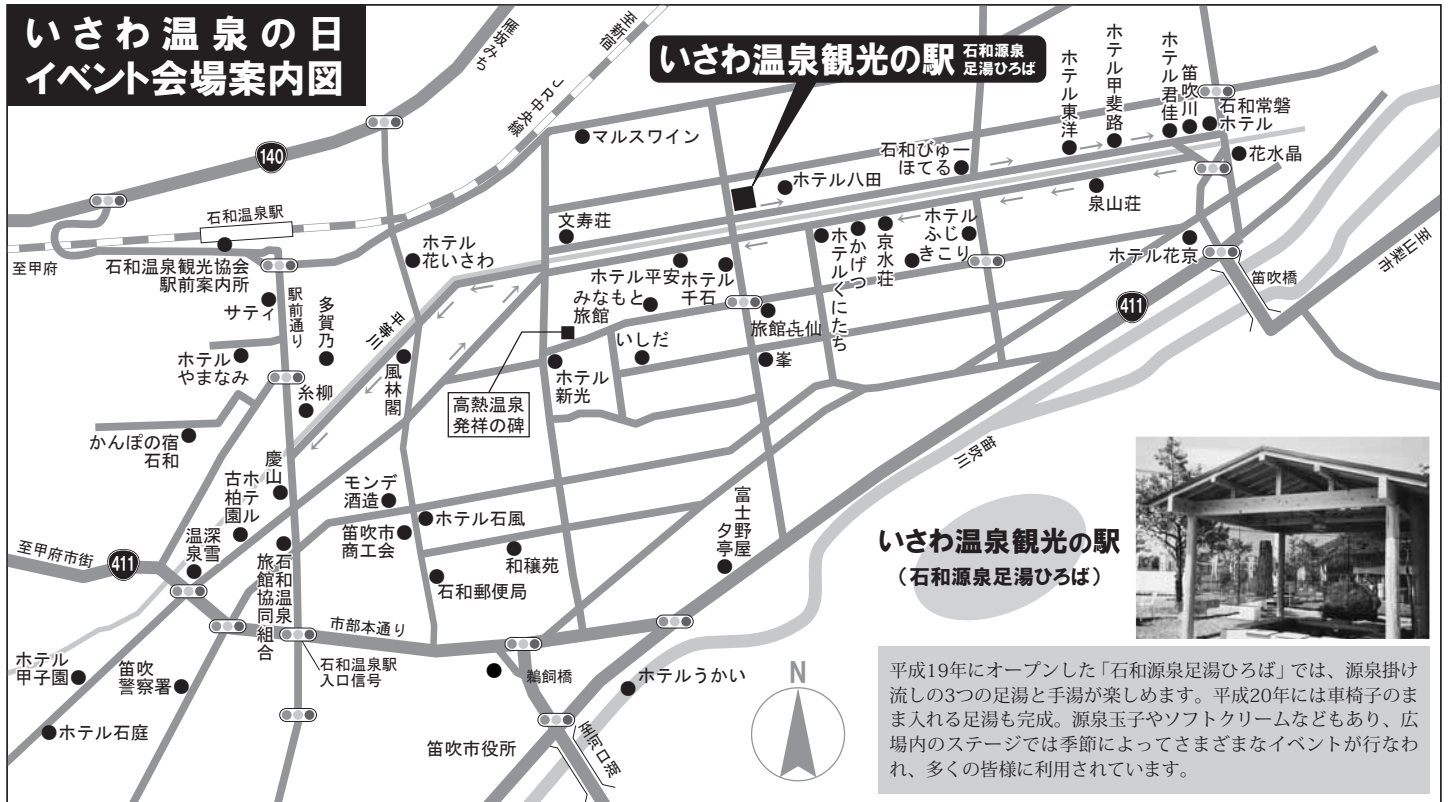
青空温泉フィーバーから40余年を過ぎ、今や数多くの温泉旅館・ホテルが並び、温浴施設や温泉病院・クアハウス・デイサービス施設なども建設され、果実と温泉の町として大きく発展しました。

文・写真「石和温泉が10倍楽しめる本」「石和温泉郷誕生40周年記念誌」より

【石和温泉の泉質】アルカリ性単純温泉水、無色透明で硫化水素臭味を有す

【石和温泉の効能】神経痛・リュウマチ・神経炎・身体の運動器能障害に良い

いさわ温泉の日 イベント会場案内図



主 催 / 石和温泉観光協会 TEL.055-262-3645、231-5500 <http://www.isawa-kankou.org/>
 協 力 / 笛吹市観光物産連盟
 後 援 / 恩賜林御下賜 100 周年記念事業実行委員会・(株)山梨食肉流通センター